

## 平成 30 年度 練馬区地域おこしプロジェクト選定事業の評価について

団体名	ねりまコンビニ協働プロジェクト
事業名	地域共生社会の高齢者支援におけるコンビニエンスストアとの協働モデルの構築

「コンビニエンスストア」を以下、「コンビニ」とする。

### 1 平成 30 年度の実績

[認知症への理解を深める研修プログラム N-impro の普及]

N-impro 体験会（21 回開催、計 595 名受講）

[N-impro ファシリテーターの養成]

「N-impro ファシリテーター養成講座」（4 回開催）

区内全ての地域包括支援センターから 66 人が受講

[モデル地域における普及活動]

地域：貫井・中村北地域

協力：中村橋地域包括支援センター

内容：コンビニへのインタビュー調査（7 店舗 10 店舗中）

地域ケアセンター会議、はつらつセンターでのワークショップ、区立中学校等での N-impro 体験会開催

「N-impro 新聞」の発行

### 2 平成 30 年度の評価

当事業を推進する担い手として地域包括支援センター（以下、「包括」とする。）の職員に焦点を当て、その結果、全ての包括に最低一人、N-impro ファシリテーターとなる人材を養成できた点は、区と協働することにより得られた成果だと評価できます。

モデル地域では、コンビニの参加を促す方策を探るため、10 店舗中 7 店舗でインタビューを実施しました。包括職員とコンビニ従業員が顔の見える関係を築くことで、互いの信頼関係が深まり、包括への通報件数が徐々に増えてきた点は良いことです。しかし、日常的に忙しく、人材不足なコンビニが N-impro を受講するインセンティブを示せていないため、練馬区全体を考えると、コンビニへの広まりは期待以上までは至らなかったように思います。

平成 31 年度以降、区の施策として事業を継続実施するにあたり、包括に通報があった場合、職員がリアルタイムに対応できるのか、また、包括に業務集中する傾向を鑑み、負担感なくコンビニと包括が連携できるスキームを構築できるかが課題です。

今後、事業として取り組む区には、練馬区発の「N-impro」が他自治体でない先進的な事例として、区内のみならず区外へ波及していくこと。そして、N-impro 体験会の対象として、コンビニ以外の店舗や、高齢者が出入りする様々な場所を視野に入れ、広く波及するよう取り組むことを期待します。